宮崎市文化財調査報告書　第97集

瓜生野小学校校庭遺跡

ー児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書ー

2013

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書　第97集

瓜生野小学校校庭遺跡

うりゅうのしょうがっこうこうてい

―児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書―

２０１３

宮崎市教育委員会

序

本書は、宮崎市立瓜生野小学校敷地内の児童クラブ建設に先立ち、平成24年10月15日から平成24年10月26日まで実施した瓜生野小学校校庭遺跡の発掘調査報告書です。

本遺跡は、詳細分布調査の成果から、これまで奈良時代から平安時代に属する遺跡と考えられていましたが、今回の発掘調査で約4500年前の縄文時代後期の土器が見つかり、その時期から人々が生活の場としていたことが明らかになりました。

この調査成果は、瓜生野地区の歴史を知るうえで貴重なものであり、今後、学校教育や生涯学習など、地域の皆様に大いに活用していただきますよう期待しております。

最後に、この発掘調査を実施するに当たり、ご理解ならびにご協力を賜りました地域の皆様や各関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成25年12月

宮崎市教育委員会

教育長　二　見　俊　一

例　　言

1　本書は、児童クラブ建設に伴い実施された埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は、宮崎市教育委員会生涯学習課より依頼を受けた同委員会文化財課が平成24年10月15日から平成24年10月26日までの期間で実施した。

3　調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会　文化財課		
	調査総括	課　長	橋口　一也
		課長補佐	山田　典嗣
		副主幹兼埋蔵文化財係長	島田　正浩
	調査調整・庶務	主　査	鳥枝　誠
	調査員	主任技師	秋成　雅博
		嘱　託	川野　誠也
	整理作業	嘱　託	玉谷　鮎美

4　本書の執筆は、第Ⅰ章１を鳥枝が、その他は川野が行った。

5　掲載した図面の実測・製図・図版の作成は、秋成・川野が行った。

6　現場の写真撮影は川野が行った。

7　発掘調査により出土した遺物及び調査における図面、写真等は、宮崎市教育委員会で保管している。
資料の閲覧･利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

8　方位は地図は真北、図面上は磁北とする。

9　本書で使用した土層の色調は『新版　標準土色帖』に準拠した。

10　遺構の略名は土坑をSC、柱穴をPitとする。

11　本書の編集は川野が行った。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに
　１．調査に至る経緯…… 1
　２．遺跡の立地と歴史的環境…… 2
　３．調査の経過…… 2

第Ⅱ章　調査の成果
　１．層序…… 3
　２．遺構…… 4
　３．遺物…… 4
　４．まとめ…… 6

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺主要遺跡分布図…… 1
第２図　遺跡周辺地形図…… 2
第３図　基本土層図…… 3
第４図　遺構配置図…… 3
第５図　SC1　土層図・平断面図 …… 4
第６図　出土遺物実測図①…… 5
第７図　出土遺物実測図②…… 6

表　目　次

第１表　出土縄文土器観察表…… 7
第２表　出土須恵器・土師器観察表…… 7
第３表　出土石器観察表…… 7

図　版　目　次

図版１…… 8
　調査地遠景（西から）　／　調査区全景（北東から）
図版２…… 9
　調査区全景（真上から）　／　調査地基本層序（北から）
　SC1　完掘状況（西から）
図版３……10
　出土遺物

第Ⅰ章　はじめに

１．調査に至る経緯

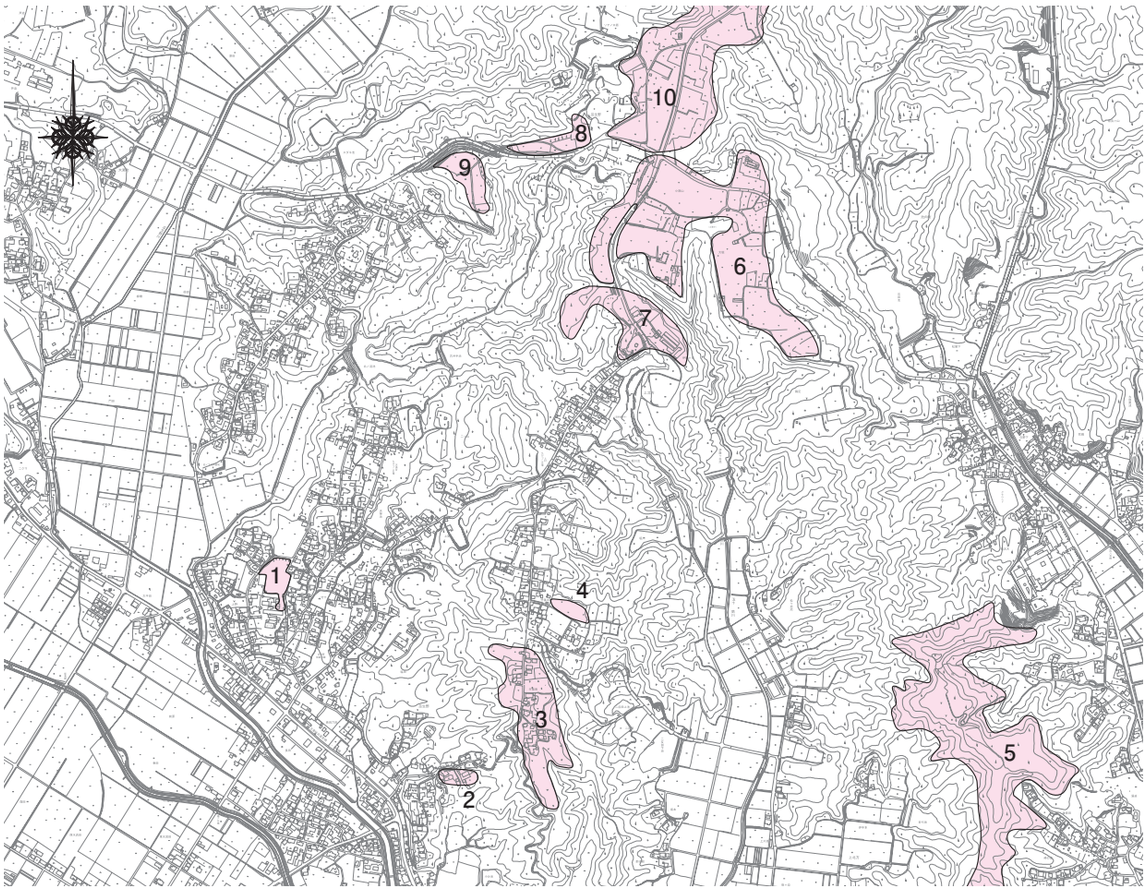
平成23年10月25日に宮崎市教育委員会生涯学習課より、平成24年度事業に伴い、瓜生野小敷地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「瓜生野小学校校庭遺跡」に隣接することから、試掘調査が必要であると回答し、平成24年４月23日に試掘調査を実施した。

当初の計画では、プレハブ建ての既存の児童クラブ建物とほぼ重なる位置での建設が予定されていたため、建物東側にトレンチ１箇所を設定して試掘調査を行った。その結果、竪穴状遺構が２基検出され、古代の土師器が出土した。

その後、新築される建物の位置が既存の児童クラブ建物の南側へと変更になったことから、８月31日に２回目の試掘調査を行った。試掘調査は、トレンチ３箇所を設定して行い。土坑２基ほか柱穴が検出され、遺構内外より縄文時代後期の土器、古代の土師器が出土した。

２回の試掘調査の結果、建設予定地は、アカホヤ火山灰層まで削平を受けているが、遺構が残存していることが確認されたため、新築される鉄骨造平屋建ての児童クラブ建物部分約90㎡を対象として発掘調査を行い記録保存の措置をとることとした。

発掘調査は、平成24年10月15日から10月26日までの期間行った。



１．瓜生野小学校校庭遺跡　２．野首遺跡　３．竹篠城跡　４．竹篠遺跡　５．宮崎城跡
６．垂水第２遺跡　７．今城跡　８．金剛寺原第１遺跡　９．金剛寺原第２遺跡　10．垂水第１遺跡

第１図　調査区周辺主要遺跡分布図（Ｓ＝１/20,000）

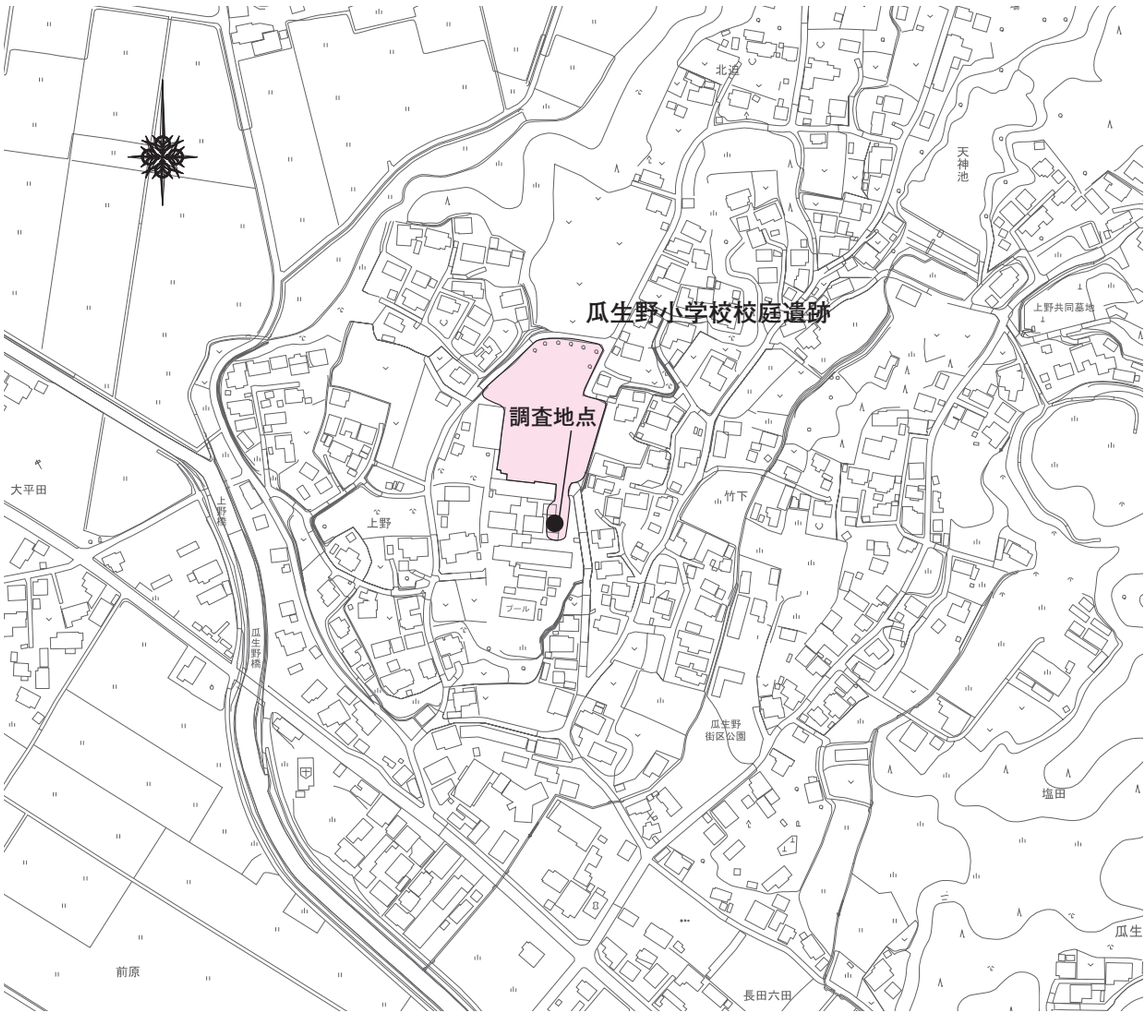
２．遺跡の立地と歴史的環境

瓜生野小学校校庭遺跡の立地する丘陵は、宮崎平野の中央部北寄りに位置しており、大淀川とその支流である本庄川左岸の台地の南端部に立地する。調査地周辺では古代の遺物と思われる土師器片が多数表採出来ることから遺跡の時期は古代に属していた。

本遺跡の台地上の北部に位置する垂水第1遺跡や垂水第２遺跡は旧石器時代や縄文時代の遺物が出土している。また、谷を隔てた東西の台地上にも数多くの遺跡が所在する。遺跡のある台地の谷を挟んで西側にある柿木原台地上では人骨と刀子が出土した柿木原地下式横穴が、東側にある台地上では円筒埴輪や形象埴輪が出土した下北方古墳群や、多くの副葬品が出土した下北方地下式横穴群など古墳時代の遺跡が調査されている。

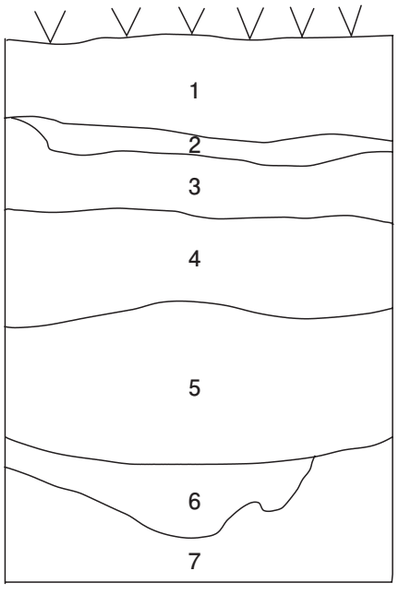
３．調査の経過

調査は、10月15日にバックホウを使って表土剥ぎを行い、土坑と柱穴を確認した。10月16日から遺構とトレンチの掘削を始め、土坑と柱穴から縄文土器が出土した。10月22日から写真撮影、実測作業を始めた。10月24日に全景写真を撮影し、撤収作業を行った。10月26日にはバックホウによる埋め戻しを行い現地での調査を終了した。



第２図　遺跡周辺地形図（Ｓ＝１/5,000）

第Ⅱ章　調査の成果

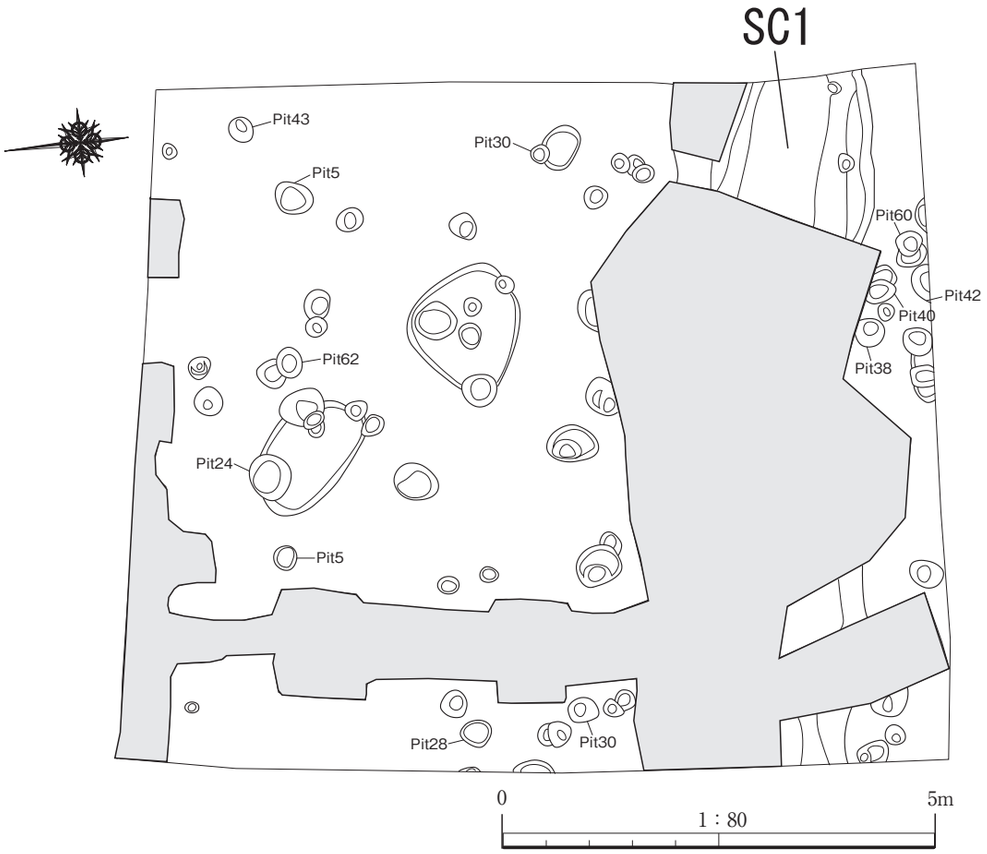


第３図　基本土層図

１．層序

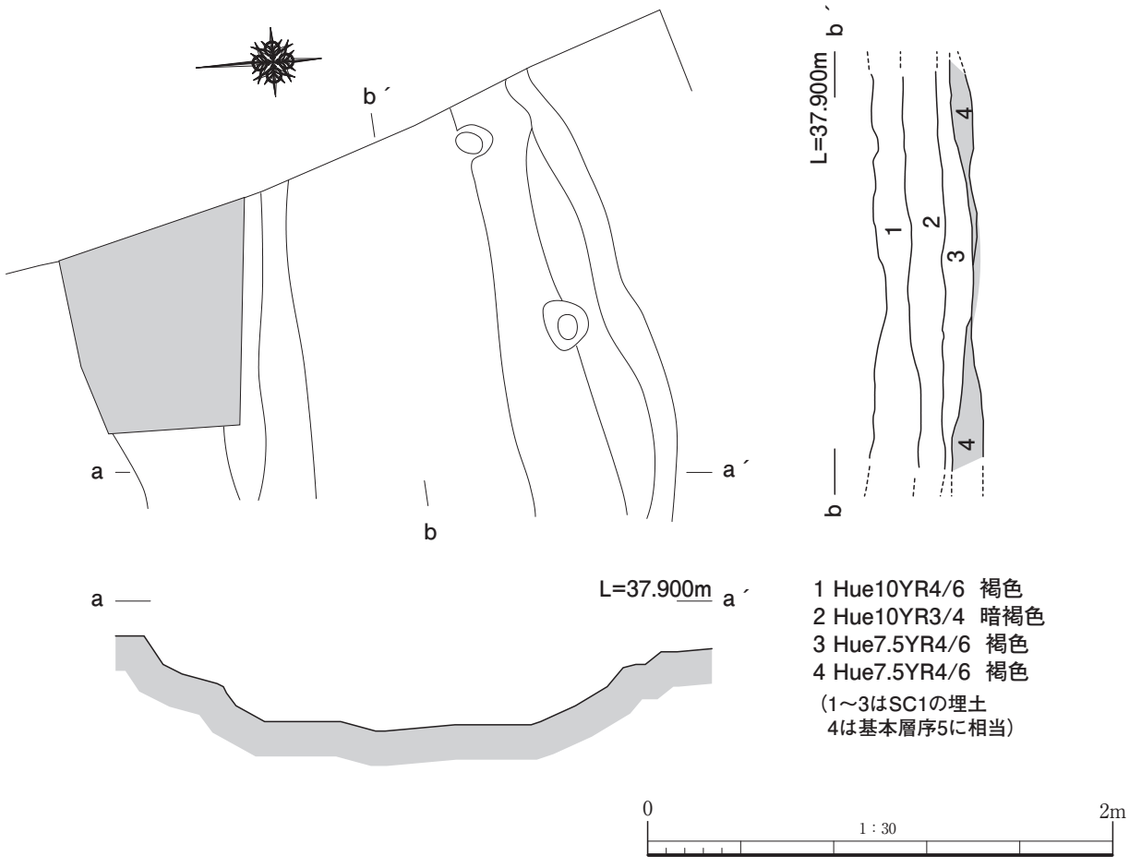
瓜生野小学校校庭遺跡における基本層序は以下の通りである。

１（Hue10YR5/2　灰黄褐色）締りはやや強い。整地層。
２（Hue10YR4/2　灰黄褐色）締りは弱い。整地層。
３（Hue10YR5/1　褐灰色）締りは強い。整地層。
４（Hue10YR3/3　暗褐色）締りはやや強く、遺物を含む。
５（Hue7.5YR4/6　褐色）締りはやや強い。地山層。
６（Hue10YR4/6　褐色）締りはやや強く、軽石を微量含む。
７（Hue10YR6/8　明黄褐色）シラス。



※網掛け部は撹乱

第４図　遺構配置図（Ｓ＝１/80）



第５図　ＳＣ１　土層図・平断面図（Ｓ＝１/30）

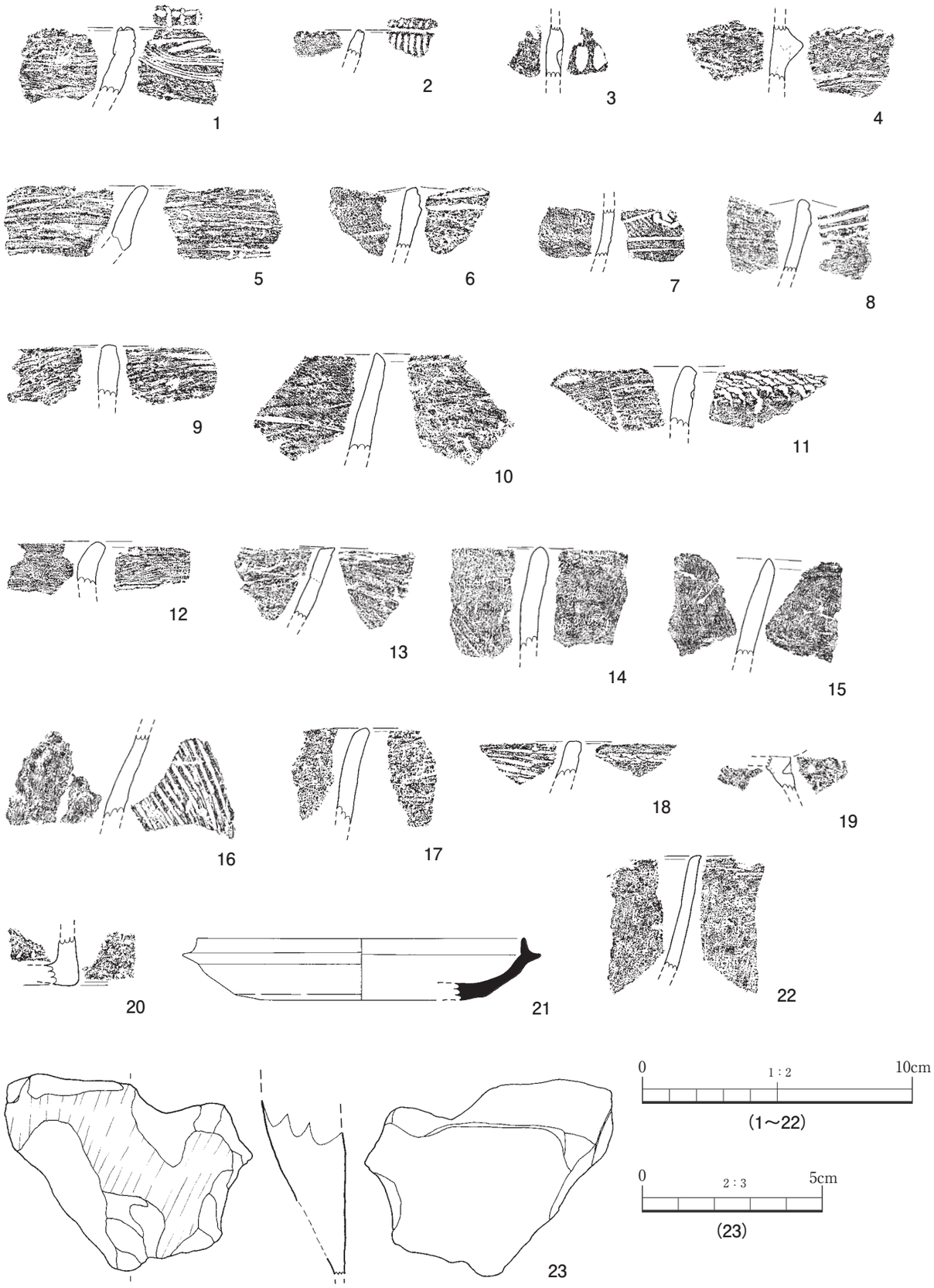
２．遺構

調査区の南東で土坑が１基検出された。西側と北側の一部が撹乱で破壊され、東側は調査区壁に続いているため全形を知ることは難しいが、埋土の堆積状況で僅かながら立ち上がりを確認できたため土坑と認定した。残存部は南北の軸で2.29mである。また、上部を後世の削平により喪失しており、残存部の深さは0.4mである。

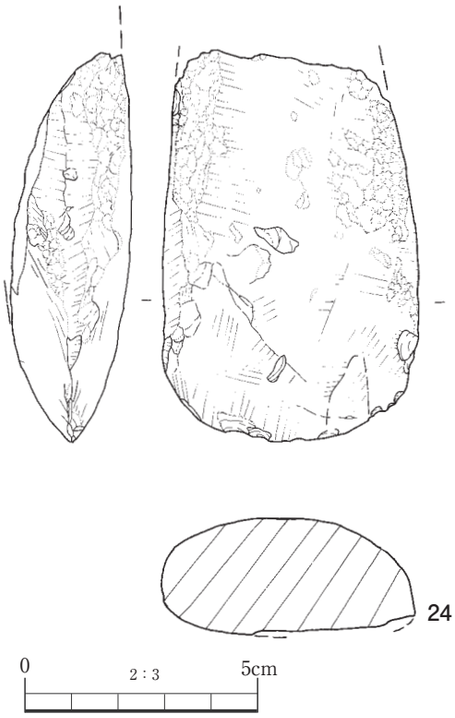
遺物は縄文土器６点（第６図No.８、９、10、13、17）と石製品１点（第６図No.23）が出土した。遺構の埋没時期は、出土した遺物から縄文時代後期と考えられる。

３．遺物

１～３は宮之迫式土器である。１は口縁端部に沈線を巡らした後にキザミ目が施されており、口縁部下には不規則な沈線文が施されている。２は口縁部直下に短沈線が連続して施されている。３は口縁部付近と思われ、刺突が巡らされている。４は市来式土器で口縁部下は断面が三角形の粘土紐をつけ、そこに貝殻刺突文を施している。６は口縁部下に２条の沈線文が施されている。７、８は西平式土器である。７は磨消縄文がみられる。８は波状口縁で、口縁部下に２条の沈線文が施さ



第６図　出土遺物実測図①（１～22：Ｓ＝１／２　23：Ｓ＝２／３）



第７図　出土遺物実測図①（Ｓ＝２／３）

れている。９～11は納屋向式土器である。９、10は無文だが調整と胎土が類似している。12～18は無文であるが他の有文土器の時期から、いずれも縄文時代後期に属するものと考えられる。19は台付皿形土器である。20は鉢の底部で底面には白色の付着物がある。21は古墳時代の須恵器の杯身片である。22は土師器の口縁部片である。小片のため時期は不明である。23は滑石製の不明石製品である。全体的に赤化しており熱を受けた可能性があるが使用方法は不明である。24は頁岩製の磨製石斧である。基部が欠損しており、欠損後の再利用は認められない。刃部には使用後についた可能性のある剥離面が観察される。刃部以外は敲打痕を残すことや大きさから縄文時代の石斧と思われる。

４．まとめ

今回の調査成果は縄文時代後期の土坑１基と遺物が確認されたことである。これまで確認されていた古代の遺物以外に、縄文時代後期の遺物を確認することができた。

調査地は撹乱により破壊されている箇所が多く、調査面積が90㎡と、遺跡の様相を把握するには狭かったため、今回は遺構や遺物の確認に留めざるを得ない。

参考文献

宮崎県教育委員会　1995年『学頭遺跡・八児遺跡』 県道高岡・郡司分線道路改良事業に伴う発掘調査報告書

宮崎市教育委員会　2006年『本野原遺跡三』 宮崎市文化財調査報告書第62集

小林達雄　2008年『総覧　縄文土器』 株式会社アム・プロモーション

水ノ江和同　2012年『九州縄文文化の研究 －九州からみた縄文文化の枠組み－』 雄山閣

第１表　出土縄文土器観察表

No.	出土位置	器形	部位	文様及び調整		色　調		胎　土				備　考
				外　面	内　面	外　面	内　面	石英	長石	角閃石	砂粒	
1	Pit60	深鉢	口縁部	ナデ・沈線文	横位ナデ	10YR8/4(浅黄橙)	10YR8/4(浅黄橙)	○	－	○	3㎜以下	口縁端部にキザミ目
2	Pit42	深鉢	口縁部	貝殻腹縁刺突文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	10YR7/4(にぶい黄橙)	○	－	－	2㎜以下	
3	Pit60	深鉢	口縁部付近	ナデ・刺突文	横位ナデ	10YR7/6(明黄褐)	10YR7/6(明黄褐)	○	－	○	1㎜以下	
4	Pit43	深鉢	頸部	ナデ・突帯文・貝殻腹縁刺突文	ナデ・圧痕文	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR6/6(橙)	○	－	○	1㎜以下	
5	Pit38	鉢	口縁部	ナデ	ナデ	10YR7/3(にぶい黄橙)	10YR7/6(明黄褐)	－	○	－	2㎜以下	
6	Pit13	深鉢	口縁部	ナデ・沈線文	横位ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	○	－	－	3㎜以下	波状口縁
7	Pit5	鉢	胴部	ナデ・沈線文	横位ナデ	2.5Y4/3(オリーブ褐)	2.5Y2/1(黒)	－	○	－	精良	磨消縄文
8	SC1	深鉢	口縁部	横位ナデ・沈線文	横位ナデ	10YR4/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	－	○	○	1㎜以下	波状口縁
9	SC1	深鉢	口縁部	貝殻条痕文→ナデ	貝殻条痕文→ナデ	10YR4/6(褐)	10YR4/6(褐)	○	－	－	1㎜以下	
10	SC1	深鉢	口縁部～胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/6(橙)	7.5YR6/6(橙)	－	○	○	精良	
11	不明	深鉢	口縁部	貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/6(明褐)	7.5YR5/6(明褐)	○	－	○	1㎜以下	
12	Pit38	不明	口縁部	横位ナデ	横位ナデ	10YR5/4(にぶい黄褐)	10YR5/4(にぶい黄褐)	○	－	－	3㎜以下	
13	SC1	不明	口縁部	横位ナデ	横位ナデ・指押さえ	7.5YR7/3(にぶい橙)	7.5YR3/1(黒褐)	○	－	－	3㎜以下	
14	不明	深鉢	口縁部～胴部	横位ナデ・指押さえ	横位ナデ	7.5YR7/4(にぶい橙)	7.5YR7/4(にぶい橙)	○	－	－	1㎜以下	
15	Pit24	深鉢	口縁部	横位ナデ	横位ナデ	7.5YR6/6(橙)	10YR7/4(にぶい黄橙)	－	○	－	2㎜以下	
16	Pit43	不明	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄褐)	10YR6/4(にぶい黄褐)	－	○	－	2㎜以下	
17	SC1	鉢	口縁部	横位ナデ	横位ナデ	7.5YR7/6(橙)	7.5YR3/1(黒褐)	－	○	－	2㎜以下	外面にススト付着
18	Pit30	深鉢	口縁部	横位ナデ・押型文	貝殻条痕→ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR6/6(橙)	－	○	○	2㎜以下	
19	SC1	台付皿	不明	横位ナデ	指押さえ	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	○	－	－	精良	穿孔あり
20	Pit62	鉢	底部	横位ナデ	ナデ・指押さえ	7.5YR5/6(明褐)	2.5Y7/3(浅黄)	－	○	－	5㎜以下	底面に付着物

第２表　出土須恵器・土師器観察表

No.	出土位置	器種	部位	文様及び調整		色　調		法量(㎝)			胎　土				備　考
				外　面	内　面	外　面	内　面	口径	底径	器高	宮崎小石	石英	角閃石	黒染	
21	Pit13	坏身	口縁部～胴部	ナデ	ナデ	5Y7/2(灰白)	5Y7/2(灰白)	(18cm)	(10.8㎝)	(3.4㎝)	－	1㎜微か	－	－	
22	Pit28	不明	口縁部～胴部	風化の為不明瞭	ヨコナデ	7.5YR7/6(橙)	10YR8/6(黄橙)	－	－	－	2㎜多い	1㎜微か	－	2㎜微か	

第３表　出土石器観察表

No.	出土位置	器種	石材	長(㎝)	幅(㎝)	厚(㎝)	重(g)	備　考
23	SC1	不明石製品	滑石製	(5.4)	(6.9)	(2.5)	73.27	
24	Pit40	磨製石斧	頁岩製	(8.3)	(5.4)	(2.6)	16.0	基部欠損

図版 1

調査地遠景　（西から）

調査区全景　（北東から）

図版２

調査区全景　（真上から）

調査地基本層序　（北から）

ＳＣ１　完掘状況　（西から）

図版３

出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	うりゅうのしょうがっこうこうていいせき
書名	瓜生野小学校校庭遺跡
副書名	児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第97集
編著者名	川野　誠也
発行機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒880-0805　宮崎市橘通東１丁目14番20号　ＴＥＬ（0985）21-1836
発行年月日	2013年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うりゅうのしょうがっこう 瓜生野小学校 こうていいせき 校庭遺跡	みやざきけんみやざきし 宮崎県宮崎市 うりゅうのばん 瓜生野2589番地	45201	23-031	31° 58′ 13″ 付近	131° 23′ 15″ 付近	2012.10.15 ～ 2012.10.26	90㎡	児童クラブ 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瓜生野小学校 校庭遺跡	散布地	縄文時代 後期	土坑、柱穴	土器　石器	

要約	市来式土器や納屋向式土器、宮之迫式土器など縄文後期の土器片が出土した。

宮崎市文化財調査報告書　第97集

瓜生野小学校校庭遺跡

－児童クラブ建設に伴う発掘調査報告書－

2013年12月

発行　宮崎市教育委員会